

歴史的エージェンシー: 選択、行動、社会変化の物語 Historical Agency: Stories of Choice, Action and Social Change

担当：川口広美（広島大学大学院教育学研究科）

hkawaguchi@hiroshima-u.ac.jp

■ 著者情報

名前：Kent den Heyer

略歴：

・ カールトン大学（オタワ）で学士号（B.A）（歴史と哲学）マウント・アリソン大学で学士号（B.Ed）を取得の後、トロント大学教育学研究所で MA、ブリティッシュコロンビア大学カリキュラム研究の博士号を得る。ブリティッシュコロンビア大学では歴史意識研究センター及び Canadian federally funded Public Knowledge Project で勤務していた。

・ カナダ社会科教育研究（Canadian Social Studies）の編集者、カリキュラムおよび教育学会議の運営委員会の元共同議長の経験もある。

研究テーマ：社会科教育、歴史と社会科におけるエージェンシーと社会変化、反人種差別教育への精神分析的アプローチ、アラン・バディウによる教育分析、カリキュラム理論と教育哲学

有名な論文や書籍：

Den Heyer K.(2003). Between Every “Now” and “Then”: A Role for the Study of Historical Agency in History and Citizenship Education. *Theory and Research in Social Education*, 31(4),411-434.

Den Heyer K & Abbot, L. (2011) Reverberating Echoes: Challenging Teacher Candidates to Tell and Learn From Entwined Narrations of Canadian History. *Curriculum Inquiry*, 41(5), 610-635.

Den Heyer K. (2015). An analysis of aims and the educational 'event'. *Canadian Journal of Education*, 38(1), 1-27.



■ 重要用語

- ・ agency: エージェンシー（エージェントが所属するもの）
- ・ agent : エージェント（特定の人やもの、事物）
- ・ Grand Narrative : 壮大な物語
- ・ shape: 形態

■ ひとこと概要

本章は、個人集団の動機付け・意思・行動に影響を与える歴史的エージェンシーとは何かを示した上で、研究・教育上の重要性や必要性を主張することが目的となっている。まず、エージェンシーと歴史の物語との関係性について述べた後に、歴史的エージェンシーが一般的にどのような経緯で成立し、歴史教育でどのように位置づけられているかを著者の個人的経験も踏まえながら説明される。中でも、エージェンシーの形態(shape)と内容(content)の観点、アイデンティティと主観性(subjectivity)との関係性が重要であるとし、教育や研究でどのように活用されているかが説明されている。

■ まとめ

0. はじめに

(1) 「物語 (story) とは素晴らしいものである。そして彼らは危険なものである」 (トーマス・キング、2003)、物語とは、私たちが努力すべきであるとする人々、モチベーション、コモングッドに関する特定の理解を伝えることができる

⇒「国家・エージェンシー・これまで受け継がれた物語は、私たちにとって良いものであるか、悪いものであるか」

(2) 本章の位置づけ：

物語をより再帰的に取り上げることを目的とし、多様なレビューを行った。

⇒エージェンシーの問いについて答えることで、個人が物語によってどのように社会的アイデンティティを形成するかをめぐっての多様な集団の闘争 (struggle) を振り返ることになる。

1. 歴史教育におけるエージェンシー (pp. 228-231)

(1) 歴史教育は国家樹立のプロジェクトに役に立つ

(2) 規範的に「良い」行動=ある個人の欲求・目標・意図・選択の結果であるという考え方

①国家とはある特定の個人の行動の結果である：(例) 公民権運動=ローザパークス、キング牧師の取り組み

②国家とは自己改革できる人間の能力の結果である：(例) 人種差別は「歴史的異常」である

(3) 「壮大な物語」との関係性

・「壮大な物語 (grand narratives)」は、国家間や進化に関する共通の物語であると同時に、良い市民・良い生活とは何かにもつながり、深く浸透している。

⇒「沈黙の束」(Trouillot, 1995)：女性・労働者・アフリカ系アメリカ人・北米(「Turtle Island」)に暮らす先住民などの学校歴史のエージェンシーや変化においてどのように説明されているのか？

・「壮大な物語」が主要なエージェンシーの解釈を形成する

⇒これにより、生徒たちは象徴的なリーダーによる「素敵な知識 (lovely knowledge)」を教師たちに求めることすらある (Pitt & Britzman, 2003)

・理由：①実践の制約(時間的制約、リソースの制約)②歴史学において、間主観的に選択肢を評価し・選択・行動するかの難しさ。

2. (エージェンシーに関する) 歴史的系譜 (pp. 231-232)

(1) カントやヘーゲルの考え方

・エージェンシー=近代西欧国家そのものという見方、国家と市民の関係は固定的。目的論的。

(2) 20世紀後半から21世紀のポスト構造主義的考え方

・(1)の見方への疑問(例：ブルデューのハビトゥスなど)。ヘーゲルの歴史精神への疑問が起こり、エージェンシーが複雑化する⇒そもそも「私」とは？へ。

3. 私の物語：エージェンシーを探して (pp. 232-234)

(1) 学習者としての経験

・ノヴァスコシアの田舎でカナダの「壮大な物語」歴史を受けて育ち、信じていた。「歴史は市井の人々に起こる

何かであり、彼らが起こすものではないと思っていた」

⇒①女性・アボリジニ・移民は二級キャラクター。②「開拓者」や鉄道は、建国の父の決定によって東から西へと移動している。

(2) トロント大学での MA 時代

・Dr. Roger I. Simon から学んだこと

①ありふれた物語は客観的なものではない。

②一次史料の主観性が認識されていなければ、生徒は明確に理解することはできない

③歴史学習の役割は「責任ある」「良い」「生産的な」市民をつくることではない。「困難なギフト」である過去へ参画することを通じて、(より良い)人間になることなのだ。

(3) ブリティッシュコロンビア大学での PhD 時代

・Seixas から学んだこと

・当時、Seixas は Lee らのイギリスの歴史的思考の研究者から学び、二次的概念のリストを作成していた。Lee とは異なり、「重要性」「証拠」「歴史的エージェンシー」「道徳的判断」なども含まれていた。

・他の思考とは異なり、エージェンシーやエンパシーは過去の人々が自分の状況について考えることだけではない。今日の解釈となぜそういう選択をしたか、どう伝えるかという質問にも答えられるもの。

⇒しかし、ビッグ6では「歴史的エージェンシー」は「倫理的次元」に転換(理由:複雑すぎるという批判)

(4) 疑問:「複雑だからといって、歴史が「教育的」主張をもっている教師や生徒が自らの主観性や社会的に構築された意図について考える機会を奪っていいのか？」

4. 近年の歴史教育研究におけるエージェンシーの定義 (pp. 234-235)

(1) エージェンシーの定義の例

①「ある特定の文脈・限界の中で行われた過去の個人/集団による行動をもたらすもの。同時に意図的・非意図的な結果をもたらす」②歴史的事象とそこで人々の行動を規定する行動との関係性

(2) 自律性 (autonomy) とドクサ

・近年の研究では、「個人の自律性」へ注目が集まっている。しかし、歴史的ドクサが人々の選択に影響を及ぼすとしていたら、個人のエージェントは真に自律的に行動しているといえるのか？

⇒存在と関係性についての存在論 (ontology) に関する教育的課題について次に考えたい

5. エージェンシーの形態と内容 (pp. 235-236)

(1) エージェンシーに関する2つの存在論的観点:ある人が他者との関係の中で人間であることについてどう考えているか(形態)、ある人間の行動に関する説明についてどう考えているか(内容)

(2) 上記の観点は、私たちがエージェントの行動をどのように説明するかに大きな影響を与える。

例):「それぞれの集団は社会を良くしようとしていると思うんです。でも、人間は元来自己中心的なので、悪い結果をもたらすのだと思います」と答えた11年生。

⇒形態(集団やリーダー)と内容(人間とは自己中心的だ)がある事象の説明に影響を及ぼしている

(3) エージェンシーは、歴史と現代に関する隠された存在論的信念を掘り起こすことに関係

6. エージェンシーの形態と内容をめぐる歴史学 (historiographical work) の成果 (pp. 236-239)

(1) エージェントの形態と歴史的説明の方法について

・個人を自律したエージェントとしてみなす立場と、我々・他者の意図や選択や行動をどのように説明するかについては継続的な議論中である

例) 人間の状況について説明する際の合理的選択主義者とより社会学的なアプローチで説明することの対立。

⇒ただし、対立軸のどちらかだけで行う必要はない。歴史研究においても教育学においても、双方のストーリーエージェントを用いるというアプローチはある。エージェンシーを用いることで、「内なる他者」を現代的・歴史的「負債」だとみなしていることについての疑問を持つことも可能。

(2) エージェントの形態=分散されたエージェント: 「意識の1つの統合体ではなく、複数に重複する身体に分配された力」(Bernett)

①文化コミュニティと文化・科学的イノベーションとの間に存在 (Ermarth, 2001)

②客観的ディスコースと主観的な意味づけによって存在 (Cebera, 2004)

③「社会集団」による葛藤の中に存在 (Touraine, 1981;1995)

(3) こうした一連の成果は、歴史教育研究の成果よりも、エージェンシーの形態についての幅広い解釈を可能にする。社会変化に関する歴史的・現代的事例に対する理由付けや共感に関する問いを深めることになる。

7. エージェンシーの内容 (pp. 239-241)

(1) 人間の動機についてどのように説明するか (内容)

①物質的な動機 (マルクス主義、リベラル)

②「経験」や「ディスコース」に示される「修正主義的・言語的説明」(伝統的歴史学)

③一般的道徳観や世界の確立に関して発生する多様な論争や紛争 (Smith, 2001)

(2) どのエージェントとエージェンシーを採用するかについては、どのような社会集団に注目するか(形態)、動機・意図のどの側面に注目するか(内容)によって変わる

⇒エージェンシーの形態と内容の関係性に注目することは研究の可能性を広げることにも繋がる (den Heyer, 2012を参照のこと) し、エージェンシーをペダゴジカルツールとしても用いることができる。

8. アイデンティティと主観性 (subjectivity) (pp. 241-242)

(1) 定義

・アイデンティティ: 世界が私たちをどのように読むか ⇔ 主観性: 私たちが世界をどのように読むか

(2) マイノリティーの主観性からの再検討:

①フェミニストによる原因と結果の再調査: 女性が出てくると考えられる箇所を検索することによって、これまでの歴史解釈を再構築させる、②エスニックマイノリティーによるもの

⇒歴史的エージェンシーの状況はアイデンティティと主観性に依拠する

(3) フェミニストを「怒れる」「男嫌い」とするようなネガティブなフレームで見られていることが更なる歴史解釈上の混乱を招いている

⇒どのようなイメージを有しているかについても考慮に入れる必要がある

9. 個人的・歴史的エージェンシーのモデル (pp. 241-242)

(1) エージェンシーの機能：人々の動機・選択・行動に繋がる「コードの和音」

⇒エージェンシーは経験の主體的解釈(=「反復」のコード)、社会的文脈の中での教訓を応用する(=「評価」のコード)、もし望ましくない結果が出た場合、再度認知的・倫理的に一貫性を持たせようとする(=「予測可能性」のコード)がある

(例)「休暇でどこに行きたい?」、政治上の選択、職場での立場

(2) 歴史的エージェンシーと個人的エージェンシーを繋げることで社会的・個人的歴史が繋がる。

⇒社会的な争いと「知識の貯蔵」とが繋がることで、生きるうえでの主観的な感覚が培われる。

(3)「歴史的」を用いる理由：①歴史の教え方への問題意識 ②「歴史的」という役割を与えられるための争いへ目を向けるため

(4) エージェンシーは複雑であり、誰も完全に共有することは不可能である。

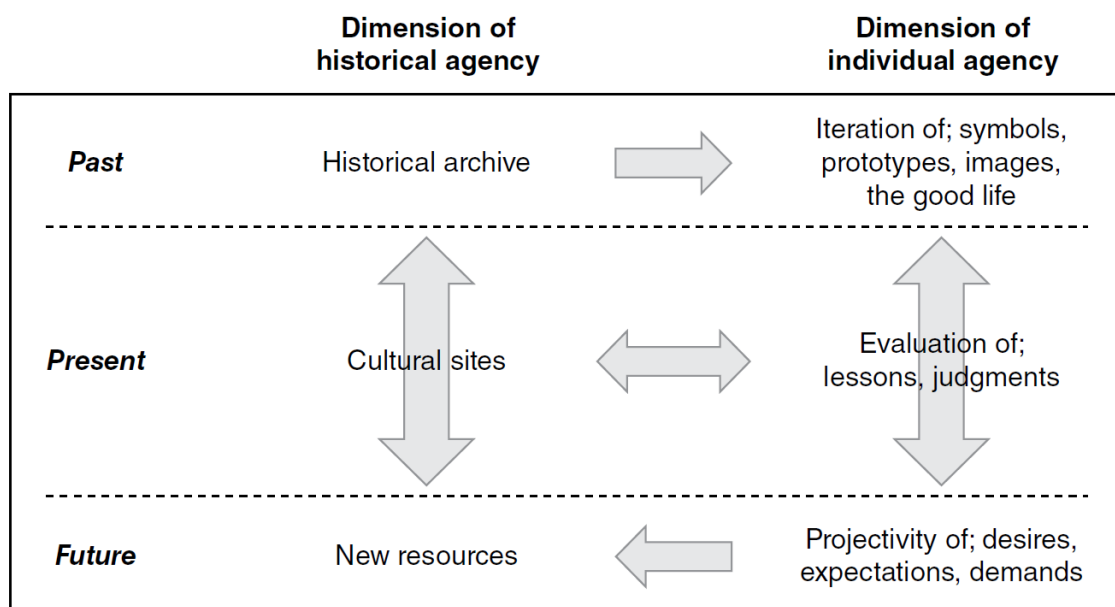


Figure 9.1 Dimensions of historical-individual agency, depicting the relationship between the archived and storied past, interpreted present, and projected future.

10. 考察：歴史的観点から見たエージェンシー (pp. 241-242)

(1) 歴史を、過去・文化的フレームからではなく、現在・政治的レンズからも見る必要がある

⇨過去にばかり捉われる歴史教育

歴史教育の目的：①歴史学的スキルを育成すること ②①だけではなく、誰かが「重要だ」と思って採用された物語であることに気付くこと ⇒②がなければ、ahistoricalである。

(2) 物語は素晴らしいが、その劇薬さに気付く必要がある。容量に気をつけて！